

## Q2：遺族などの匿名希望は考慮していますか？

私たち報道機関は、実名で報じることを絶対視しているわけではありません。遺族の思いは尊重されるべきものだと考えており、その必要性を事件ごとに判断しています。京都アニメーション事件でもそうでしたが、命が失われる事件・事故が起きるたびに、遺族の希望、事件の重大性、社会性、被害の内容などを考慮し、被害者を実名で報じるか匿名で報じるか、悩みながら社内で議論しています。

選択した判断も状況に応じて見直しています。「繰り返し名前を見るのが苦痛だ」といった遺族の声を尊重し、当初は実名でも、その後は匿名にする場合もあります。また、現場の様子などの表現も、遺族の心情をかき乱しかねない言葉を避けるなど、日々、検討を続けています。

近年、遺族が匿名を希望するケースが増えてきていることは認識しています。その背景の一つはインターネットだと思います。SNS などネットの世界は、誰もが自由に発言できる一方で、デマや間違った情報が氾濫し、瞬く間に拡散します。事件や事故の被害者が、いわれのない誹謗中傷にさらされる悲しい事態も起きています。このような状況に、遺族は不安を抱かれているのだと思います。犠牲者や遺族を誹謗中傷したり、尊厳や名誉を傷つけたりする言説は、ネット上だけでなく、いかなる場所であっても許さない姿勢を明確にし、是正に役立つ報道に努めています。

実名で報じるかどうかの判断は、報道する側が責任をもって行うことです。記事などに関して、ご遺族から寄せられた意見や疑問には、真正面から向き合い、きちんと応対する責務を負っています。また、今回のような説明も重要だと考えています。